



地域の梨園向けにレジアプリを開発した山口さん(左)と石井教授

川崎市の梨園「松屋梨園」(多摩区生田)に、ネットワーク情報学部4年次の山口颯太さんが開発したレジシステムが導入され、大きな助けとなっている。山口さんは、学年を超えてテーマごとに研究に取り組む教育プログラム「ラボ」の一つ、「自分たちでつくる無人コンビニラボ」に参加してきた。学生主体の無人コンビニ「NEST」(ネスト)は2024年に誕生。購入履歴や在庫状況が確認できる会員アプリと、商品を購入する際に使うレジアプリは、山口さんが中心となって開発した。「ネストの技術をもっと外の世界でも生かしたい」。そう考えていた25年夏、ラボを指導する石井健太郎教授の知人から、市内

梨のまち川崎に専大生の技術 山口さん レジアプリを開発

(ネット情報4)

の梨園の販売所で、レジアプリを使えないかと打診があった。

生田キャンパスがある川崎市は、江戸時代から続く梨の産地だ。現在、栽培面積は減少しているが、収穫時期になると生産者による販売所に梨が並ぶ。その一つ、150年の歴史を持つ松屋梨園では、販売所での出入金管理や在庫把握が手作業で負担になっていた。

山口さんは石井教授と相談しながらネストのレジアプリを改良。入金と在庫を一元管理できるシステムを開発した。

「不慣れな方でもすぐ使えるよう、操作はできる限りシンプルにした」と語る。梨以外の農産物を販売することもあるため、写真を撮ってボタンに表示する機能を取り入れ、直感的な操作を可能にした。

レジアプリは25年の梨シーズンから稼働。松屋梨園からは「売り上げが可視化されて作業が速くなった。大学生と一緒に課題を解決できてよかった」と好評だ。

学部ではさまざまなことに挑戦できたという山口さん。集大成の一つがレジアプリで、「一つのゴールで終わらせず新しいことに挑戦し、地域の方に喜んでもらえることが何よりうれしい」と笑顔を見せる。卒業後はIT企業に就職予定だ。「社会に出てからも、誰かのために」という思いを大事に、やりたいことにチャレンジしていきたい」と語る。

ミラノ・コルティナ冬季五輪

校友4人が活躍

ミラノ・コルティナ冬季五輪(イタリア、現地時間2月6〜22日)に本学卒業生4人が出場した。

スピードスケートの森重選手(合5経営・オカモトグループ)は開会式と閉会式で旗手を務め、笑顔で日本選手団を率いた。森重選

森重選手 日本選手団の旗手務める



写真提供/毎日新聞社

笑顔で開会式の旗手を務めた森重さん=2月6日

手は男子5000円で10位、同10000円で24位だった。

スピードスケートでは野々村太陽選手(合6経営・博慈会)が同10000円で13位、同15000円で18位。蟻戸一永選手(合6経営・ウエルネット)は同15000円とマススタート、団体バシユートで活躍した。

スキー部OBの馬場直人選手(合2経営・中野士建)は2大会連続出場。クロスカントリースキー3種目に出場した。



写真提供/毎日新聞社

【男子5000m】森重さん=2月14日



写真提供/毎日新聞社

【男子1000m】野々村さん=2月11日



写真提供/毎日新聞社

【男子1500m】蟻戸さん=2月19日



写真提供:長田洋平/アフロスポーツ

【男子マススタート】馬場さん=2月21日

文・松原ゼミ

3年次生2グループがTVF2026入賞

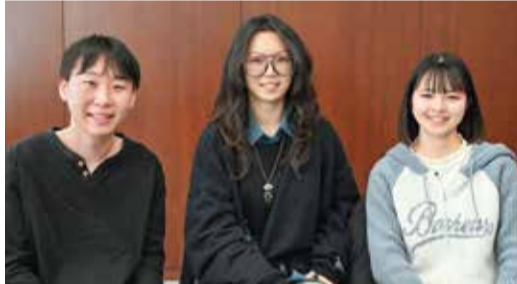
文学部ジャーナリズム学科・松原文枝ゼミで放送学を学ぶ3年次生2ク

ループが制作したドキュメンタリー作品が、東京ビデオフェスティバル2026(TVF)で入賞した。

TVFは、プロ・アマ不問、ジャンルやテーマ自由の「市民による市民のための映像祭」。

松原ゼミでは、テレビ報道の分野で長年活躍する松原特任教授の指導のもと、3年次生が身近な社会問題をテーマに映像作品を制作しており、TVF入賞は5年連続となる。

『ト一横の若者達』を制作した3人



鈴木莉奈さん、劉羽鷲さん、中山宙靖さんが制作したのは『ト一横の若者達』。新宿・歌舞伎町の「ト一横」に集まる若者たちを取材した。街の独特な雰囲気にも「最初は話しかけるのもためらった」という。しかしカメラを回すうちに、多くの若者が居場所がほしくて集まっているのだと気づいた。「メディアが語る

クマ問題に取り組んだメンバー



『ト一横の若者』像では「界の声」で入賞したのえない、一人一人の姿が見えてきた」と3人は話す。将生さん、廣田愛喜さん、長野の境村で、クマ問題の背景や現場の実情に迫った。「猟友会からはクマとの向き合い方や人手不足の問題、クマ問題に取り組むNPO法人では、単に駆除すればいいわけではないという話を聞

地域のPR映像制作

文・応用実習

文学部ジャーナリズム学科の必修科目「応用実習」(村上賢司兼任講師)では、映像制作の企画や技術を学び、地域PRのための映像づくりに取り組んできた。

受講生は川崎市川崎区と幸区の魅力を紹介するのチームが選ばれた。

映像を制作。入賞作品の表彰式が、2月16日に両区役所で行われた。川崎区最優秀賞は、森脇美香さん、ハン・セイさん、リ・ミンチさん、ヨウ・トウエンさんのチーム。幸区最優秀賞は、廣田愛喜さん、小松沙耶さん、森結那さん、井林瑠香さんのチームが選ばれた。